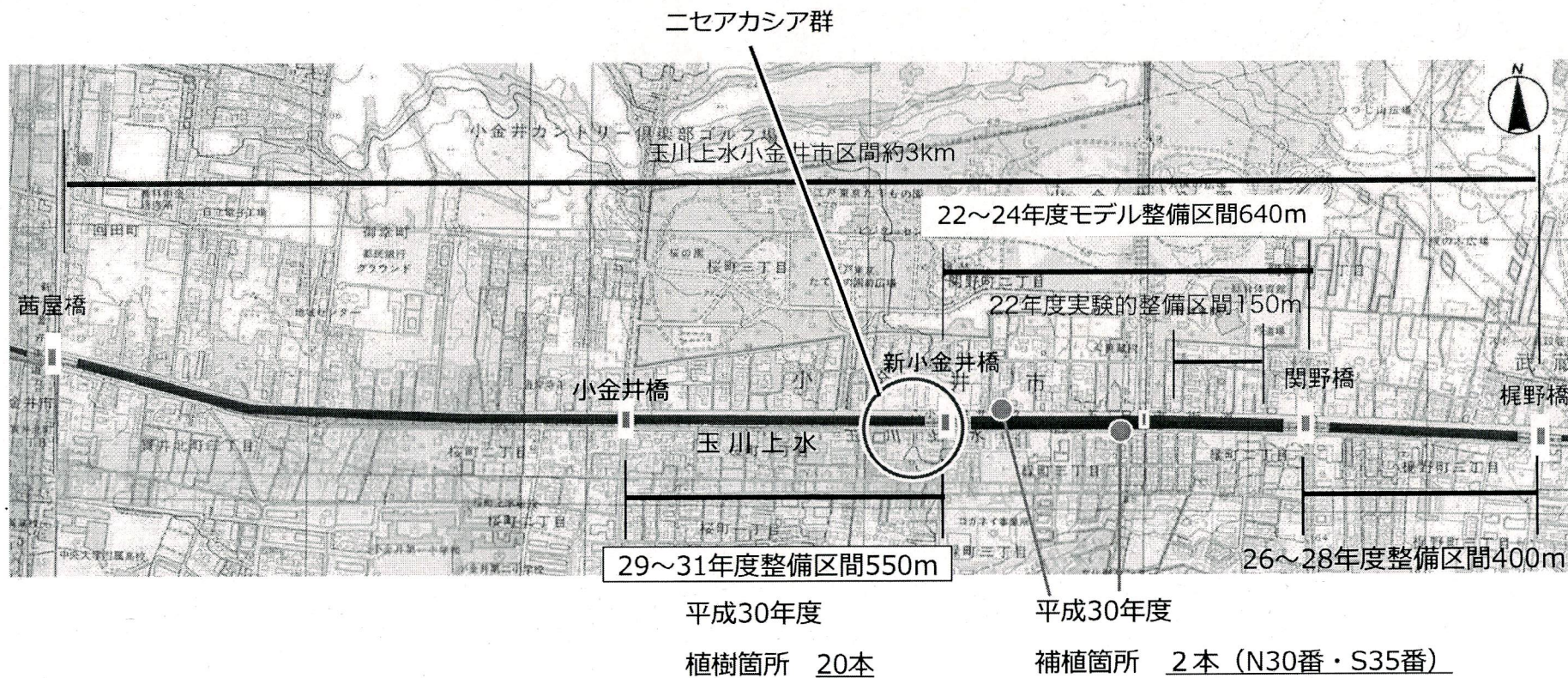


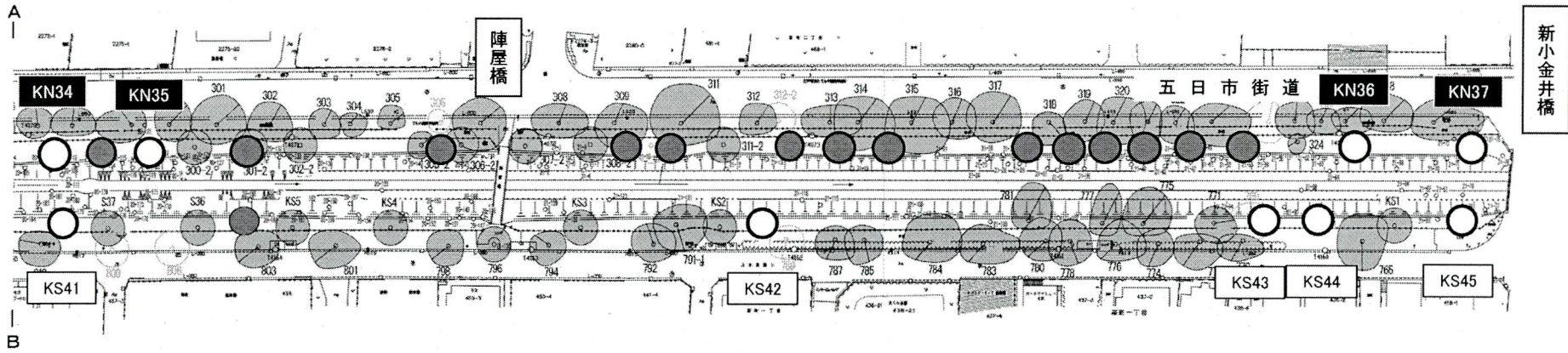
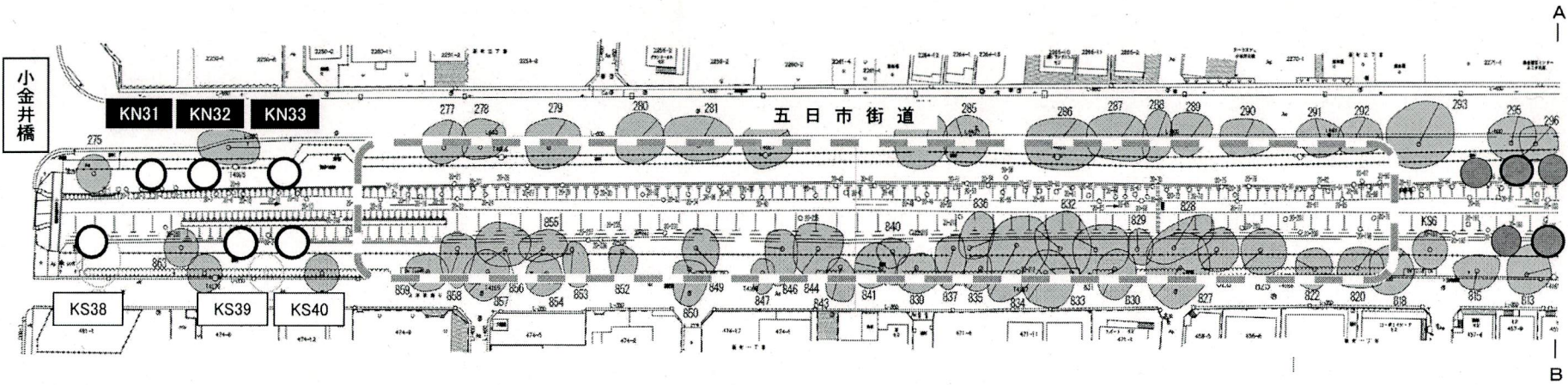
案内図

資料1



玉川上水小金井橋～新小金井橋区間 植樹位置図

資料2



凡例

名称	記号
小金井サクラ (既存)	●

● 平成30年度

○ 平成29年度実施
植樹済み (15本)



平成31年度実施範囲

外来植物ニセアカシアの処理(玉川上水新小金井橋付近)

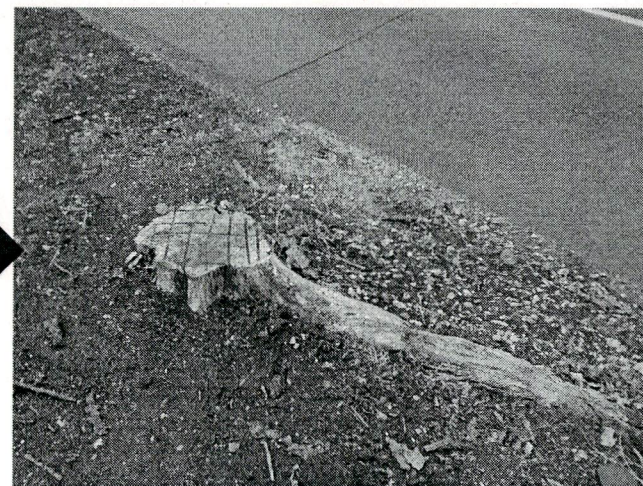
資料3



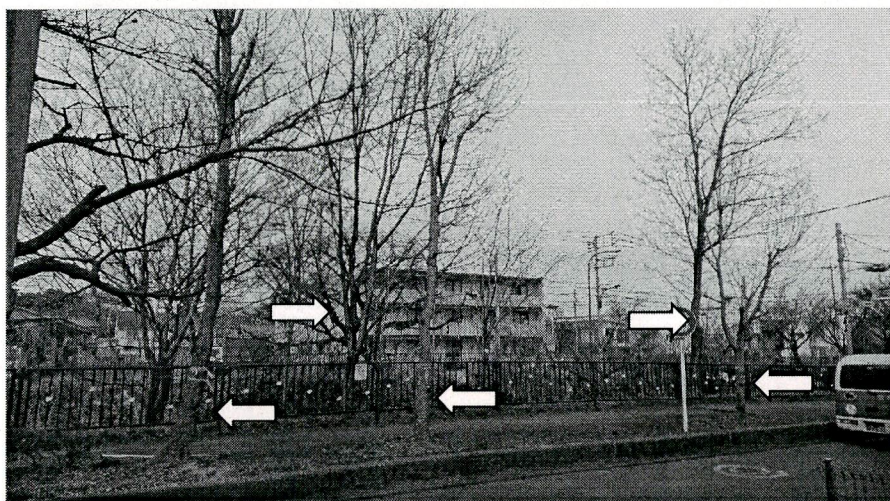
防除処理前(2018年2月)



防除処理後(2018年7月)



伐採後(2019年2月)



全景 防除処理前(2018年2月)



全景 伐採後(2019年2月)

2019年2月15日

「玉川上水・小金井桜整備活用計画」についての意見書、について

東京農工大学名誉教授 亀山 章

2006年3月5日と2009年1月17日にお話した内容は、ご意見書のとおりです。また、柚木英恵の卒業論文の内容もご意見にあるとおりです。

そのうえで、18行目からの文章については以下のように見解を述べます。

ご意見書にあります「これは上記の計画が、最初から多角的に吟味検討されたものではなく、先に述べたように学生の卒論を現実化しようとして、元々の小金井桜が植わっていたのかハッキリしない、また手入れのために立ち入ることのできないような場所を選ぶなど計画の綻びが露呈してきたのである。」の部分ですが、「学生の卒論を現実化しようとして」という書かれかたは、柚木英恵の指導教官である亀山が恣意的に計画に関与しているように思われますが、これまでに小金井桜の生育に関して、現地において調査にもとづいて実証的に研究した事例がほかに見られないことから使われたものであり、恣意的なものではありません。この論文は、内容が優れたものであることから、東京都公園協会賞の優秀賞に選ばれています。「元々の小金井桜が植わっていたのかハッキリしない、また手入れのために立ち入ることのできないような場所を選ぶ」という書かれかたは、玉川上水に沿った柵が、上水への転落防止のために近年につくられたものであり、桜は柵の存在とは無関係に植えられていたものであるという史実から考えても誤ったご認識であると言えます。

ご意見にあります「40パーセントがヤマザクラでない」につきましては、名勝小金井（サクラ）の全域のかつての調査で書かれていたものであり、カスミザクラなどのヤマザクラと同一種とされていたものが含まれていた事実などによるものでもあり、近年のヤマザクラの再生事業のことを言っているものではありません。

以上につきまして、関係するものとして、意見を申し述べておきます。